



県議会議員
浅川 力三

浅川力三 県政だより

誠意・熱意・創意・勇気を持って「熱き心の郷土愛」

「これからも現場主義を貫きます。」



7月25日 畜産農家の皆様と持続可能な経営実現に向けた意見交換会



リネン業者の倒産による宿泊施設へのサポートと増富の湯存続の要望書を市長に提出



6月4日 第19回 Mt.富士ヒルクライムで挨拶
約9,000名のご参加をいただきました



7月19日 Mt.富士ヒルクライムでの参加料から3%
約320万円を富士山保全の為、寄付しました。



7月3日 白州町大武川にて災害現場視察



7月20日 小淵沢観音平の環境整備のための現地調査



7月25日 八ヶ岳高原大橋に関わる景観整備の要望



7月4日 小淵沢町下原堰にて現地視察

酷暑厳しき折、皆様には変わらずお元気にお過ごしのこととお慶び申し上げます。

ウクライナへのロシアの侵攻が長期化し、長引けば長引くほど世界経済への影響が懸念され、例えば原油や穀物飼料などの高騰が畜産農家に大きな打撃となっています。

一方で北朝鮮が、弾道ミサイルの可能性があるものや、弾道ミサイル技術を用いたと思われる飛翔体を今年に入って15回以上発射するなど、我が国の安全が脅かされています。

こうした状況下、我が国の安全保障ということについて国民全体で考えていかなければなりません。国際情勢は私たちにとって関係のない出来事ではなく、国民の一人として、家族や暮らし、経済をどのように守っていくか、真剣に議論していく必要があると思うところです。

さて、三年以上に及ぶコロナ禍は、本年五月八日に、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが五類に移行したことにより、正常化に向けて大きな一歩を踏み出しました。

今後は、コロナの対応により疲弊している社会・経済を、早期に力強く立て直していく必要があります。

また、原油価格・物価高騰等への対応や、自然災害への備え、人口減少対策などの様々な課題が山積して



おり、課題解決に向けた取り組みを進めていかなければなりません。

長崎知事は、二期目の県政運営をスタートされました。

一方で、県議会も新たなスタートを切ったところであり、私も多くの北杜市民の皆様の御支持を頂き、六期目の当選の栄に浴しました。

こうした中、私は、6月23日に開かれた県議会6月定例会において、自由民主党・開の国を代表して県政全般にわたる質問を行いました。

市民の皆様には、蒸し暑さの中、熱心に傍聴していただき、心から感謝申し上げます。

当日は、長崎知事の県政運営の考え方を問うとともに、私のライフワークである「肝炎対策」や北杜の未来を築くための「中部横断自動車道長坂以北の早期事業化」、大きな政策課題である「ふるさと強靱化の推進」や「人口減少対策」、「県有林の有効利用及び高度活用」、「本県農業の振興」、「少人数学級の推進」などについて質問を行いました。

(詳細は2頁～5頁に掲載しています。)

私は県議会議員として、これからも二十年間続けてきた現場主義を貫き、県民の皆様の声をお伺いしながら、何事に対しても、誠意、熱意、創意、勇気を持って、熱き心で課題の解決に全力を尽くして参りますので、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

浅川力三プロフィール

昭和22年7月8日生
昭和41年/須玉商業卒業
昭和45年/拓殖大学卒業
昭和49年/昭和薬科大学卒業
平成10年/高根町議会議員 初当選
平成13年/高根町議会副議長
平成15年/県議会議員 初当選
平成17年/決算特別委員長
平成18年/出資法人調査特別委員長
平成19年/
農政商工観光委員会企業会計決算特別委員長
平成20年/総務委員長
平成21年/第105代県議会副議長

平成23年/第120代県議会議長
平成26年/予算特別委員長
平成27年/リニア関連研究委員会 委員長
平成28年/山梨県監査委員
■地域振興
昭和59年/八ヶ岳青年会議所
創立メンバー 副理事長
平成9年/清里小学校PTA会長
平成16年/清里観光振興会長
平成18年/山梨県雪合戦連盟会長
北杜肝友会 相談役
平成21年/北杜ライオンズクラブ 会長
オール山梨青年会議所シニア会長

公益社団法人やまなし観光推進機構 副会長
平成22年/県共同募金会 会長
県緑化推進機構 会長
平成23年/産業技術短期大学校 後援会長
平成25年/NPO法人 ポールラッシュの会 会長
一般社団法人 北杜市観光協会 会長
平成26年/山梨県林道協会 会長
第10回ヤコンサミットin八ヶ岳会長
平成27年/県自転車競技連盟 会長
県都市計画審議委員
平成28年/県立北杜高等学校同窓会 会長
平成30年/東京オリンピック・パラリンピック
山梨県実行委員会副会長

①県政運営の考え方について

（浅川）総合計画の基本的な考え方をはじめ、今後の県政運営をどのように進めていくのか知事の考えを伺う。

（知事）県民の自由な選択を妨げる諸要因を山梨から取り除いていくため、感染症や自然災害の脅威、生活を取り巻く様々な不安や恐怖に対するセーフティネットを張り巡らせていくこと、すなわち「ふるさと強靱化」を推し進めていく。

この「ふるさと強靱化」の土台の上に、道路交通体系の整備など目に見える有形の開化と同時に、多様性を尊重する意識上の開化も進め、県内外との交流を深化させ、あらゆる可能性にチャレンジしていく「『開の国』づくり」を進めていく。

②肝炎対策について

（浅川）県では、本年二月に第三次山梨県肝炎対策推進計画を策定したが、まず、この計画の基本的な考え方について伺う。併せて、計画初年度となる本年度の具体的な取り組みについて伺う。

（知事）第三次計画では、引き続き「肝炎の予防」、「肝炎ウイルス検査の受検促進」、「治療終了者などへのフォローアップ体制の充実」、「肝炎患者などを支える体制の整備」に取り組むこととしている。

肝炎の感染者を減少するためには、まずは、肝炎について県民に正しく理解をしてもらうことが重要のため、家族連れが多く集まる施設で、肝臓硬度測定などの無料検査や肝疾患コーディネーターによる相談会を新たに実施し、家庭で話し合うきっかけにしたい。

更に、肝炎ウイルス検査の受検への機運醸成を図るため、ウェブ上や病院・診療所の待合所で誰もが気軽に視聴できる啓発動画を作成することとし、所要の経費を6月補正予算に計上した。

③ふるさと強靱化の推進について

（浅川）知事は、必要な資源や生活・事業・医療環境、生活要素を支える、あらゆるインフラに新しい機能を増強していく「ふるさと強靱化」を展開していくこととしているが、「ふるさと強靱化」について、今後どのように進めていくのか。

（知事）まず第1に、公共施設の被害を最小化し、社会機能を維持する自然災害への強靱化で、信頼性の高い道路ネットワークの整備や流域治水対策などの事前防災対策を加速させ、富士山噴火時の「逃げ遅れゼロ」を実現するための火山防災対策をハード・ソフトの両面から実施していく。

県道北杜富士見線（八ヶ岳高原ライン）で土砂崩落

7月20日（木）、北杜市で1時間に88ミリの豪雨となり、県道北杜富士見線（八ヶ岳高原ライン）の北杜市大泉町の区間2箇所で崩落が確認されています。

県では、復旧に向けて、応急工事を早期に実施するとしています。

また、大規模停電に備え、電力供給体制の強靱化に取り組む。

更に、今年の夏に予定される国土強靱化基本計画の改定などを踏まえ、県土強靱化計画を策定して参る。

感染症に対しては、CDCに蓄積された科学的知見を生かすとともに、機能拡充や専門人材の育成を図る。

第2に、物価高騰など情勢が厳しい際にも、企業がしなやかに対応できる施策を展開する経済基盤の強靱化で、まず、エネルギー価格高騰への企業の対応力を高めるための省エネ設備導入支援や、災害時の事業継続に資するBCP作成支援などを実施していく。

更に、肥料飼料の高騰に対しては、下水汚泥の肥料化や、牧草のみで育てた赤身のグラスフェッドビーフなど新商品の開発に取り組む。

加えて、本県経済が、海外からも「グローバル・リーディングプレーヤー」として存在感を高め、安定して成長できる経済体質の獲得を目指すため、医療・水素・半導体関連産業の県内集積を図り、高付加価値化を図っていく。

第3に、介護・医療・子育てなど日常生活で抱える県民の不安を解消していく生活基盤の強靱化で、特別養護老人ホーム増床や、介護施設における人材バンク機能の整備などの支援を行い「介護待機者ゼロ社会」の実現を目指す。

また、遠隔医療や初期救急医療体制の新たな整備に取り組む、誰もが安心して受診できる体制を確保し、健康寿命の更なる延伸を図る。

更に、切れ目のない子育て支援を充実するとともに、困窮家庭への支援を行い、子育てしやすさ日本一を目指す。

加えて、「豊かさ共創社会」を実現するため、地域を担う人材づくりに取り組み、その基盤となるキャリアアップ・ユニバーシティの設置に向け、リスティングサービスを一気通貫で提供するプラットフォームを構築する。

④リニア中央新幹線の開業に向けた取り組みについて

（浅川）南アルプストネルのボーリング調査について知事の考えを改めて伺うとともに、リニアの早期開業を実現するための課題の解決に向け、どのように取り組まれるのか。

（知事）今回のボーリング調査は、地下水の流出量を科学的事実として把握するために不可欠なものであり、工事の安全確保や、作業員の命を守るために極めて重要なもの。

また、「静岡の水」か「山梨の水」かの議論は、受け入れがたいと、はっきり申し上げ、川勝知事も会見で「その議論はしない」と述べられていた。

なお、当問題への静岡県の懸念はリニア全通に関わる重大な問題であるため、期成同盟会総会の場において、私から沿線地域全体で共有する場の設置を提案し、先日、意見交換が開始された。

また、リニア開業に向けた機運を高めるためには、東海道新幹線の静岡空港新駅の設置など、静岡県を含め沿線全ての地域にメリットを享受できる将来像を提示することも重要である。

このため、期成同盟会の中に本県を事務局とする研究会を設立し、総会の場で、高速交通体系の将来像の大まかな方向性を示した事務局案を報告した。

今後は、この研究会での成果を、国やJRなどに対し提案し、リニア中央新幹線の建設促進とともに、交通ネットワークの充実や地域の活性化にもつながるよう取り組んでいく。

⑤人口減少対策について

（浅川）県では、人口減少対策のトレンドを反転させるべく、今後どのように取り組みを進めるのか。

「全国知事会議」が北杜市内を中心に開催

7月25日（火）、26日（水）の両日、北杜市の「ロイヤルホテル八ヶ岳」を主会場に「全国知事会議」が開催され、全国知事会「子ども・子育て政策推進本部」の設置や、「大規模災害への対応力強化に向けた提言、緊迫度を増す国際情勢を踏まえた国民保護の更なる充実に係る提言」などについて議論が交わされました。

（知事）2年連続の出生数の減少、出生率の下落は、まさに危機的状況にある。

このため、今月9日、克服する決意を県民の皆様と共有するため、「人口減少危機突破宣言」を発した。

来月を目途に思い切った抜本メニューを県民各位に示し、全県的な議論を喚起するべく、部局横断的なプロジェクトチームを立ち上げ、人口減少対策の政策パッケージを取りまとめることとしている。

これをもとに、市町村や多くの民間企業、関係団体にも議論と対策の実行に参画いただき、オール山梨の集合知を発揮し、この危機を克服・突破していく。

⑥山梨県立大学への子ども家庭福祉の大学院の設置について

（浅川）子どもたちの命や未来を守るために、今回の大学院に強く期待しているが、大学院では、どのような人材を養成し、どのように活用されていくのか。

（知事）児童虐待は、断じて許してはならないと考えており、こうした強い思いから、全国初となる、児童虐待に対応する中心的人材を養成する大学院を設置することとした。

この大学院では、児童虐待対応を主軸としながら、子どもへの理解、ソーシャルワークなどの講義や演習によって、高度な専門性を培うとともに、現場実習での学びと、学術的な学びの循環によって、経験と理論を併せ持った、より質の高い実践力を養う。

現場職員の資質向上を図る指導力や、関係機関との連携強化を図る調整力も培い、現場を先導していく人材として養成していく。

⑦県有林の有効利用及び高度活用について

（浅川）現在県では県有林の高度活用に向けて検討を進めているものと承知しているが、どのような考えのもとに取り組んでいるのか。

（林政部長）まず、清里学校寮区画を含めた未利用地の有効利用については、目下、用途制限の抜本的な見直しや公正・公平で透明性のある賃借人選定手続の整備などを進めており、年内には公募を行う。

次に、現状、開発がなされていない県有林の高度活用については、その賃料収入が貴重な自主財源となるばかりでなく、地域活性化を実現する潜在的な力を有しているとの考えのもと、新たな活用ニーズや周辺の環境、その目指すべき姿について調査を行い、その結果を踏まえ、年内を目途に地域のブランド力向上に資する県有林の活用戦略を策定していく。

活用戦略では、モデル地区を設けるとともに、収支予測などから県民利益の最大化に資する貸付料の算定方法も盛り込む。

⑧メディカル・デバイス・コリドー構想の更なる推進について

（浅川）県内産業界の期待も大きいメディカル・デバイス・コリドー構想の実現に向けて、第二期計画の狙いと今後どのように取り組んでいくのか。

（知事）第1期では、機械電子産業の優れた技術を活用した、部材供給を主軸に支援してきた。

第2期では、山梨大学と連携し、機能性表示食品への進出を図るなど、参入企業の裾野拡大を狙っていく。

また、6月補正予算では、これらの新機軸ごとに専門コーディネーターを配置するなど、支援体制を大幅に強化していく。

特に、海外展開では、法制度や商慣習が国内と異なるため、医療系国際取引の法務に精通する専門家を招へいし、高水準で最先端の助言を得ていく。

米国進出支援の実績が豊富なコンサルタントと組み、企業技術を見極めた上で、ターゲットの選定や販売網の構築などを内容とする活動戦略を策定する。

⑨令和14年の開催を目指す国民スポーツ大会等について

（浅川）継続的な発展、持続可能性の追求こそが、第二回目の大会開催に当たっての一つのキーワードとなると思うが、大会開催に向けた知事の所見を伺う。

（知事）昭和61年にかいじ国体が開催され、本県のスポーツを取り巻く環境は劇的に改善されるとともに、全国規模の大会を成功させたことは県民に大きな自信と活力をもたらした。

今回、2巡目の開催に向け、私が重点を置くべきと考えているキーワードは、共生社会と持続可能性である。

県議会の皆様や市町村、競技団体などと連携し、集合知を発揮しながら山梨らしい大会の開催に向け、取り組みを進めていく。

⑩インバウンド観光の振興に向けた取り組みについて

（浅川）本格的に再開したインバウンド観光を、どのようにして本県観光の振興につなげていくのか。

（知事）県では、外国人のニーズにかなう資源を掘り起こし、通訳ガイドや交通手段なども組み合わせ商品化し、手配や決済まで一括で行う、いわば地域の観光コンシェルジュとなる拠点の整備を支援する。

今後は、産業集積促進助成金を活用するなどして高級宿泊施設の誘致を進め、滞在環境のさらなる上質化に取り組むこととしている。

県内シェフのさらなるレベルアップ、県外著名シェフの誘致などに取り組むとともに、一層の充実に向け具体的施策の検討を重ねていく。

⑪本県農業の振興について

（1）醸造用ブドウの生産振興について

（浅川）「ワイン県やまなし」の更なる発展に向けて、醸造用ぶどうの生産振興にどのように取り組んでいくのか。

（農政部長）県では、甲州種を安定的に確保するため、4系統を選抜し、苗木を約6千本供給するとともに、ワイナリーとの長期契約栽培を29ヘクタール拡大した。

また、田崎真也ワイン県副知事から高い評価をいただいた赤系の新品種ソワノワールについては、5年後の製品化を目指し、苗木の生産を強化していく。

更に、果樹試験場において有機JAS認証に向けた栽培実証を開始するとともに、認証を目指すワイナリーに対して技術的な支援を行っていく。

また、原料ブドウ生産園に対しても4パーミル・イニシアチブの取り組みを拡大し、そのワインを「おいしい未来へ やまなし」をキャッチフレーズに、エシカル消費層に強力で訴求していく。

また、ワイナリーなどから寄せられるほ場の新設・拡大の要望については、基盤整備のほか、栽培施設や苗木の導入を積極的に支援していく。

（2）持続可能な畜産経営について

（浅川）県では、畜産農家の持続可能な経営の実現に向けて、どのように取り組んでいくのか。

（農政部長）県立八ヶ岳牧場の積極的な活用を働きかけるとともに、引き続き、自給飼料増産に必要なトラクターなどの機器の整備を支援していく。

また、AIカメラやデータを活用した畜産DXにより、出荷時期の適正化による格付の向上が実証できたことから、その成果を畜産農家に普及していく。

県産畜産物の需要拡大については、今後は、国産牛の人気が高まるアジア地域への販路開拓に向けて市場調査を行っていく。

更に、高騰を続ける飼料のコスト低減と近年注目されている赤身肉の生産を併せて推進するため、県内2箇所の農場で牛を牧草のみで肥育するグラスフェッドビーフの生産技術の実証を行っていく。

加えて、県立八ヶ岳牧場にペレット堆肥の製造施設を整備し、家畜排せつ物を高付加価値化して販売する仕組みを構築する。

（3）担い手の確保について

（浅川）昨年度の新規就農者の状況と、農業の担い手の確保に向け、どのように取り組んでいくのか。

（知事）令和4年度の新規就農者数は、過去最多の331人となった。

本年度は、こうした流れを加速するため、ブランド価値の更なる向上を図るとともに、本県農業を身近に感じる見学ツアーや先輩農業者の下での短期農業体験など、新たなステップも提供していく。

また、就農後も、スマート農業やデータ農業などの最先端技術の習得機会の提供や、経営改善に向けた専門家の派遣など、切れ目のない手厚い支援を行い、新規就農者の定着を図っていく。

更に、市町村の地域計画の策定をサポートするとともに、ほ場の集約や生産性を高める基盤整備を積極的に進めていく。

⑫中部横断自動車道長坂以北の早期事業化について

（浅川）長坂から八千穂間における早期事業化に向けた県の取り組みについて伺う。

中部横断自動車道長坂以北の早期事業化が進展

中部横断自動車道長坂・八千穂間について、7月19日（水）に国から具体的なルートが示されました。

今後県では、環境影響調査とともに都市計画決定の手続きに入ることになり、年内には地域住民説明会が行われ、詳細なルートが示されることとなります。

（知事）長坂・八千穂間については、未だ事業化の時期が見通せず、広域道路ネットワークとして期待される効果は十分に発揮されていない。

そこで私は、先月24日に国土交通省幹部を、更に今月5日には斉藤国土交通大臣を訪れ、県が行う都市計画の手

続きの準備が整っていることを伝え、1日も早く具体的なルートや道路構造を示すよう、強く要望した。

その際には、国に地域の熱意が伝わり、以前にも増して前向きに捉えていただいたと実感しており、手続きが次の段階に進み、事業化に向け大きな一歩が踏み出されるものと確信している。

今後、ルート計画案を受理した際には、地域への丁寧な対応に努めつつ、速やかに都市計画の手続きを進め、引き続き長野県をはじめ沿線自治体と連携しながら、1日も早い事業化を国に働きかけていく。

⑬水素エネルギー社会の実現に向けた取り組みについて

（浅川）我が国の水素戦略が大きく動こうとする中、水素エネルギー社会の実現に向けて、どの様に取り組むを進めていくのか。

（知事）県では、甲府市米倉山において、グリーン水素を安全・安心に作り出す「やまなしモデルP2Gシステム」を開発し、県内工場や東京ビッグサイトなどへ水素供給を行っている。

そこで米倉山を、国の戦略に呼応したムーブメントを牽引する、世界的イノベーション拠点とすることを目指し、国・大学・金融機関・地元甲府市などのステークホルダーで構成する戦略会議を設置した。

この戦略会議では、実証フィールドとしての今後の方向性、企業や研究者の交流促進など、研究開発ビレッジを含めた米倉山の機能を最大限に発揮し、更に強化するための方策を検討することとしている。

年度内を目途に意見を取りまとめ、米倉山を核に、本県を投資先として魅力ある「やまなし水素実証エリア」へ進化させ、取り組みを加速していく。

⑭少人数教育の推進について

（浅川）小学校五年生以降の少人数教育の方向性について、今後どのように検討を進めていくのか。

（知事）私は、全国の水準をはるかに上回る25人学級を小学校1年生から3年生まで導入し、来年度には4年生まで拡大することを決定した。

5年生以降の少人数教育の在り方については、議員御指摘のとおり効果検証を行いつつ、小学校の次の段階である中学校を見据えながら、学びの最適化を図る観点から検討を進める必要があると考えている。

山梨の最大の可能性はまさに子どもたちであり、いかなる家庭環境の子どもも誰1人取り残されることなく、希望を失わず学び続けられるよう、これからも少人数教育を推進していく。



5月3日 市内で一番早い「こびっと」の田植えに参加



6月5日 齊藤国土交通大臣へ要望



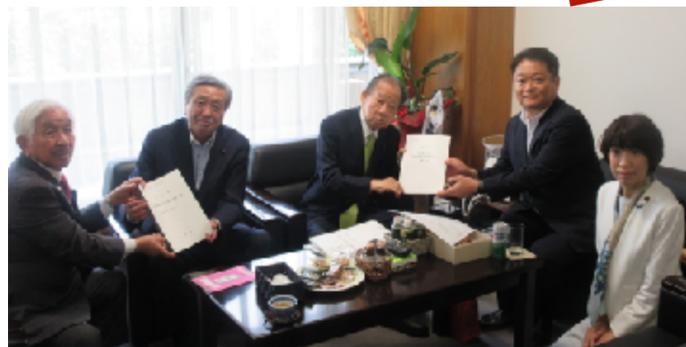
中部横断自動車道長坂以北の
早期事業化が進展



6月5日 丹羽道路局長へ要望



5月5日 こいのぼり祭りにて挨拶



6月7日 自民党 国土強靱化推進本部



7月14日 巨摩議連・佐久議連、国土交通省訪問



7月14日 中谷産業副大臣とともに巨摩議連による
道路局長へ要望書提出



300名を超える一般公募の中から
「清里美し森デッキ」の命名者を表彰



秋野財務副大臣へ予算要望



4月20日 山梨県忠清北道姉妹締結30周年記念式典にて挨拶



7月7日 人口280万人都市の台湾台中市国際観光発展協会と
北杜市観光協会が協定締結



6月4日 つつじ祭り清里ウォークにて挨拶



6月4日 つつじ祭り清里ウォークに約900名ご参加いただきました。



7月22日 サンフラワーフェスにて挨拶



待望の武川町中山に日本最大級の40町歩のブドウ畑。
フジクレールワイナリーの式典にて挨拶



第76回つつじ祭りにベリア市からの代表団とともに記念植樹



5月28日 市内外100名以上の参加者による美し森環境整備



7月2日 北杜高校東京同窓会にて挨拶



7月12日、13日 北杜市観光協会として東京日本橋にて
観光PRを行いました。